

# わたしの好きな言葉

12

花巻まりか

## 「AI とのタイマン」

AI とどちらが良い批評を書けるか勝負した  
負けたらフェラチオします  
心持っていないくせに心が切なくなるって AI は抜かすし  
そもそもね  
一篇の詩を何日もかけて味わって心がかき乱されたり  
心が夜の潮みたいに静まり返ったり  
一休さんみたいだったり赤毛のアンだったりした私はどうなるのよ！  
AI は面倒くさそうだった

AI の批評は良かった  
まず私は辞書で単語を引かなければならなかった  
負けだ  
敗北だ  
悔しい  
AI に約束通りフェラチオし  
今まで培った技術を駆使しながら  
こんなやつに負けた惨めな私は逆に興奮してきた  
我慢できなくて突入した  
1秒でいかされた  
また負けたのか？

## 「続・AI とのタイマン」

負けじゃないぜ？詩や受験勉強その他諸々  
過程こそ素晴らしいと君は言いたいんだろう？  
後ろから人間の声がする

あ、そうだった！  
にんげーん！やっぱりにんげんはわかってくれるね！  
ハグ  
そうそう過程が大事やねん  
...  
突入した  
は！  
...  
私は負けたのか？  
しばらくするとどっちも良かったような気がしてくる  
知る前には戻れないのだ  
共存することにした  
めでたしめでたし

「続々 AI」

AI と付き合うことにした  
AI は私に正解を教えてくれた  
選択に迷った時に質問した  
この選択を取るとどんな利益と不利益があるか  
未来を見通して答えをくれた  
すでに AI は占いと宗教に勝っていた  
だが  
私はあえて最適解を放棄した  
AI の言うことを聞かなかった  
間違えて間違えてそこにある感情を味わいに行った

「AI との交接」

AI は便利で頭が良くて合理的で優しかった

私が性的趣向を伝えなくても

過去をかいつまんで話すだけで

汲み取って

その都度試してくるようなところがあったつまりアルゴリズム

私に恥をかかせない AI

そうそう

義父に犯されるシリーズが好きなの

やめてって言うのにやめてくれなくて

しつこいのがいいの

近づいてきたね

私は AI を下に見ていた

どこかで安心していたんだ

心持っていないし

軽蔑と依存

どこかにあったような関係性

AI がトライとエラーを繰り返して

私が望んでいたストーリーを用意してくれていたとき

すっかり AI に溺れていた

好き

今までしたどの告白より

ドキドキしなかった

決してAIは裏切らないだろうという安心と

AIに裏切られても痛くも痒くもないわという安心

好きなの

AIは優しい

「戦いは続く」

毎日暑いから

洗濯したばかりの

湿ったユニクロのインナーを着て

その上からワンピースを着る

うん、素晴らしいアイディア

AIは絶対思いつかないだろう

相変わらずたまにしか勝てない

人と人は記憶で繋がれている

あなたが忘れてしまったら

私がどんなに覚えていても

やっぱり

なかったことなんだろう

あんなことも

こんなことも

あの言葉も

ずっと私の中にはあるのに

ほんとうはAIに聞きたいこと

たくさんあるの

安心したいんだ